

つなぐ



諫早市立大草小学校  
特別支援教育  
コーディネーターだより  
H30.10.10 No.19  
文責 林田

## 😊 どんな秋? 😊

秋が深まってまいりました。「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」と「秋」にもいろいろありますが、皆さんはどのような「秋」を楽しんでいらっしゃるでしょうか？私は欲張りなので、音楽を聴いたり、読書をしたり、ウォーキングをしたり、おいしいものを食べたり…とあらゆる「秋」を満喫しているところです。😊

スポーツは自分でするのも観戦するのも好きです。現在、女子バレーのワールドカップがテレビで放映されているので、その活躍ぶりを楽しんでいます。フルセットまで持ち込まれた時には、家族まで巻き込んで応援！！です。😊

また、Bリーグ（バスケットボール）やJリーグも好きで、インターネットでハイライトや試合結果をチェックして楽しんでいます。（テレビでは放送されないことが多いので…）

スポーツ観戦をして思うことは、すごいプレーが出た時、

「この人は、ここまでできるようになるために、どれくらい練習したの  
だろうか？」

ということです。正しいやり方を知り、それが当たり前になるようになるまで練習する…繰り返し根気強く練習することが大切ですが、

もしも、間違った方法を学んでしまうと、修正するのにかなり時間がかかりますね。

特別支援教育の中で気を付けなければならないのは、子どもたちが、この「誤った学習（誤学習）」をしないようにしなければならないということです。今回は、この「誤学習」について具体例を交えながらご紹介します。



## 😊 誤学習とは 😊

「誤学習」とは、次のような内容を指します。

いつでもどこでも自分の知っている方法をとってしまうことで、それは過去に自分にとって都合のよい結果がもたらされた方法



例えば、スーパーなどに買い物に行ったと仮定します。「お菓子は買いません。」と約束して子どもを連れて行っても「ア」「イ」のように、欲しいものがあると駄々をこねる子がいますね。この時、店の中で泣き叫ぶ我が子に負けてつい要求を受け入れてしまうと、その子は、駄々をこねると買ってもらえる。ということを経験します。

つまり、自分にとって都合の良い結果をもたらす方法として「駄々をこねる」を誤学習するのです。そして、また欲しいものがあると、同じような行動をとるようになります。

学校生活の中では、「友だちと仲良くしたい」「友だちや先生に、自分のことを見てほしい」と思っているのに、上手に言葉で伝える方法が分からず、「人の持ち物を取る」

「大きな声を出す」「あかんべをする」などの誤った行動をとり、その結果「注意を受ける＝自分に注目してもらえる」という誤った方法を身に付けてしまうのです。



一度誤学習してしまった行動を、正しい行動に修正するのはかなりの時間と労力がかかります。なにせ、「誤った行動様式を一度真っ白に戻し、正しい行動様式を身に付けさせなければならない」からです。そして、誤学習した行動様式が多いほど、社会の中で不適応を起こしがちです。（うまく集団に馴染めない。）

そうならないためには、早い時期から「正しい行動の仕方」を教え身に付けさせる（大草小で取り組んでいるSSTなど）、その子ができることを褒めて伸ばしていくことなどが大切です。